

## 安全第一

事故を防ぎ安全に作業を行うために、使用者は本書をよく読み、記載事項に従い運用して下さい。また、使用者は定期的に本書を読み返し、絶えず安全対策に従った作業が出来るようにして下さい。

## 概要

SLZ ドリリーは乗用車、及び小型トラックの牽引時に使用するツールです。SLZ ドリリーへ牽引車両の後輪を搭載することで、牽引車両に負荷をかけることなく、車両の牽引が可能になります。

また、SLZ ドリリーはセルフローディングドリリーと呼ばれ、特別な機器を使わずに車両の積み降ろしを行うことが可能です。

\* 中型トラック、マイクロバス、バス、その他の車種には使用しないで下さい。

## 定格値

下記の定格値を越すような作業は行わないでください。

最大積載量 —— 1,379kg(3,040 ポンド)\*

最高速度 —— 80km/h(50mph)\*\*

\* タイヤ 4.80×8、荷重範囲 C、空気圧 6.3kg/cm<sup>2</sup> (90psi) を使用した場合。

\* ドリリー積載部分(後輪)の重量が 1,379kg(3,040 ポンド)を越さないようにして下さい。

\*\* タイヤ及び空気圧によって最高速度は変化します。

## 日常点検

安全にドリリーを運用するために、常に点検、潤滑を行い適正な作動を確認する必要があります。

- A. 全てのグリスニップルに定期的にグリスを差して下さい。
- B. ベアリングには、必要に応じてベアリンググリスを充填して下さい。  
その際、水分が入らないように気を付けてください。
- C. セーフティーラチェットには、必要に応じてスプレーグリス等を塗布して下さい。
- D. 部品の曲がり、損傷、ひび割れ(特に溶接部)、欠落が無いことを確認して下さい。
- E. ホイールナットを約 12kg・m のトルクで締め付けて下さい。
- F. 運用前に必ずタイヤの状態と空気圧をチェックして下さい。  
(4.80-8C タイヤ :6.3kg/cm<sup>2</sup>)

## 安全対策

1. 作業員は実際の牽引作業へ望む前に、空積み状態でドリリーを操作し、操作方法を身に付けて下さい。また、作業員は日常的に操作し、操作方法を確認して下さい。
2. ドリリータイヤの空気圧は、運用前に必ず点検してください。空気圧が低くなるとパンクしやすくなり、大変危険です。
3. ドリリーの操作中は周りに人がいないことを確認して下さい。
4. プライバーを扱う際は作業手袋を着用し、しっかり握って操作をして下さい。
5. ドリリーを持ち上げる前に、必ずセーフティーロックが外れていることを確認して下さい。
6. ドリリーで車両後輪を持ち上げる前に、車両前輪に輪止めをするか、もしくは車両前端を牽引姿勢に吊り上げて、車両を固定して下さい。固定せずにドリリーで持ち上げた場合、車両が転がり出してしまう可能性があり、大変危険です。
7. 車両前輪をドリリーに載せるときは、車両のハンドル直進状態にして固定して下さい。ハンドルが動き前輪が傾くと、前輪がクロスレール間に落ちてしまう可能性があります。
8. ドリリーを持ち上げた後に、必ずセーフティーロックがかかっていることを確認して下さい。
9. 牽引車両のタイヤ以外の部分が、ドリリーのクロスレールに接触していないことを確認して下さい。接触が原因で牽引車両及びクロスレールが損傷する場合があります。
10. ドリリーに搭載した状態で、牽引車両のタイヤに空気を入れしないで下さい。タイヤがクロスレール間を押し抜け、ドリリーが損傷する場合があります。
11. 牽引する際、舗装道路でも時速 80km(50 マイル)を超えないようにして下さい。また、悪路では速度を落とし徐行する等、細心の注意を払い運用して下さい。
12. 陥没した道路や浸水した道路等、悪条件での運行は避けて下さい。
13. サイドレール及びクロスレールの下に何も無いことを確認してから、車両の積み降ろしを行って下さい。手足を挟む等、大きな事故に繋がる可能性があります。
14. ドリリー各部のボルト、ロッド、ロックピン、タイヤやホイールなどの交換の際は、必ず純正部品を使用して下さい。